

# ルーテル派とはなにか? どうして私はルーテル派なのか?

2006/11/5 宗教改革記念礼拝 説教者:芳賀弥男牧師

「私はフロイド派の心理学者です。」と主張する時、その人は心理学の中でも最も有名なジークムント・フロイドの唱えた説に従う人のことです。では、ルーテル派と言う時、それは「ルター派の人々」という意味ですが、ある人はマルチン・ルターの教えに従う人々のことであると定義するかもしれません。ある意味でそれは正しいですが、2つの間違いがあります。

一つは自分がルーテル派だと主張する人は、マルチン・ルターの教えに矛盾する教えに従っているということです。二つ目はマルチン・ルターが決して人々を彼の教えに縛り付けて従わせようとはしませんでした。

ルターは教会から『福音』が全く失われた時代に生まれました。当時の教会は懺悔や、良い行い(善行)によって自分の罪は消し去られる、罪を償えると教えていました。もし、十分な良い行いができないならばお金によって他の人の善行を買うことができました。それは<sup>めんざいふ</sup>免罪符、<sup>しよくゆう</sup>贖宥として有名です。当時の聖書翻訳者、神学者や聖職者は聖書を解釈する時に「教会の教えるところは最高の権威を持つ」という考えに束縛され「聖書は<sup>あざむ</sup>欺くが、教会は<sup>あざむ</sup>欺かない」という立場を持ちました。つまり、当時のクリスチャンたちは教会絶対論によって支配され、聖書観は律法主義に堕ちていました。イエス・キリストは唯一の救い主として、救いは恵みと信仰のみによってもたらされるという福音の知らせは教会から失われていました。

ほとんどの人はこのような教会の偽教えについて何の疑いもなく受け入れていました。なぜならば、彼らは聖書の神の言葉の真理を聞く、読む機会と手段をもっていなかったからです。そのころ存在していた聖書は修道院や教会の中に鍵をかけて閉じ込められていたのです。そして聖書は当時のほとんどの人には理解できないラテン語で翻訳され、語られていたのです。

マルチン・ルターもはじめはこれらの教えを聞いたとき、自分は神の御心になうような十分な善行を行っていないことを認めました。そして、神の罰を恐れ、自分は天国に入ることはできないと恐れしました。彼は神の愛を得たいがために修道院に入りました。

ルターは修道院で聖書に近づくことができるようになりました。聖書を読み、研究するにつれて、彼は聖書にある真の福音に打たれました。つまり全ての人間が分け隔てなく、イエス・キリストの十字架での死のゆえに、完全に、一方的な罪の赦しと神の義が与えられていると言うことを学んだのです。

ルターはこの経験から、ある人間の宗教的な教えが他の人を縛り、従わせることがどれほど危険なことか気がつきました。彼は教会の教え、人の教えではなく、神の言葉である聖書のみが神の救いの奥義を解き、与えることができるものであることを悟りました。ルターは人々が自分自身で聖書に近づき、読むことができるように聖書のすべてを人々の言語であるドイツ語に翻訳しました。

では、ルーテル派とは何でしょうか? それはマルチン・ルターの教えに縛られ、従う人たちのことではありません。ルターはそのようなことをどれほど嫌ったか分かりましたか? ルターは次のように言いました。「単純に純粋な聖書を除いて、全世界に、特にキリスト教徒の間で他の本はすべて片付けてしまっても良いと言われるほど望ましい、よい本はなく、これ以外に残ることのできる本はない。」と。

ルーテル派とは何でしょうか? ルターのように神の言葉のみが私たちの良心に命令することができる人と理解することです。ルターのように私たちの救いにとって神の言葉がどれほど重要であるかを理解することです。もっと簡単に言えば、聖書の言葉があるときに、ルターのようにある人のことをルーテル派であると言うことができます。

ルーテル派のクリスチャンは聖書を学び、神への愛を持って聖書を守ります。「イエスは彼に答えて言われた。『だ

れでもわたしを愛する人は、わたしの言葉を守ります。」(ヨハネ 14 章 23 節) 隣人への愛を持って大胆に聖書を告白し、主張します。マルチン・ルターがそうであったように。「私は信じた。それゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです」(Ⅱコリント 4 章 13 節)

### どうして私はルーテル派なのか?

もし、誰かが「どうしてあなたはルーテル派のクリスチャンなのですか?」と聞いてきたら、あなたは何と答えますか?

「私の両親がルーテル派のクリスチャンであったから」「わたしはルーテル派のクリスチャンと結婚したから。」「初めて行った教会がルーテル派の教会だったから」「一番近い教会がルーテル派の教会だったから」もちろん、始めのきっかけは上に上げた理由のどれかだと思いますが、今あなたがこれらのどれかの答えしか持たないというようなことはありませんように。

ルーテル派の教義、神学、説教、聖書の学び、デボーション、伝道つまり御言葉を用いる全ての中心には救い主であるイエス・キリストがいます。つまり、聖書はただ単に私たち人間がいかにかこの世の人生を生きるべきかを伝える人生の道しるべではありません。聖書はこの世の全ての本よりもはるかに偉大な本であることを私たちは信じています。日本語ではこの神の言葉の本を「聖なる本=偽りや誤りのない本」と表していますが、英語、ギリシア語の「聖書」のタイトルが「本の中の本」「真の本」という意味にも私たちは同意します。聖書はイエス・キリストを通して神がどのように私たちを愛し、永遠の死から救ってくださったかを教える神の啓示です。「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなた方が信じるため、またあなた方が信じてイエスの御名によっていのちを得るためである」(ヨハネ 20 章 31 節) 洗礼、聖餐も単なる儀式や象徴的な習慣ではなく、イエスが十字架で獲得してくださった完全な罪の赦しを与えてくださる手段であると私たちは信じます。聖書のあらゆる書簡、あらゆる文章、あらゆる教義が究極的には私たちの救い主であるイエス・キリストを指し示していると私たちは信じます。

ルーテル派の希望の中心もイエス・キリストです。それはもしある人が次のような質問をする時の答えの中で現れます。「あなたはどのように救われましたか?」

多くの方は『自分の人生』について語るでしょう。つまり、ある人は「自分の行なってきた善行と徳」について語るでしょう。つまり、人間の側から出る何かによって神の好意を得たと考えるのです。この世にある人間の作り出す宗教の特徴は、人間は善行によって神のようになれる、あるいは神に認められる、罪の償いができるという「人間に頼る救い」の範囲を決して出ません。働いて収入を得て、それで 100 万円の買い物をして、品物が自分のものとなる原理となんら変わらないので、人間には分かりやすく受け入れやすいのです。

しかし、ルーテル派のクリスチャンは「あなたはどのように救われましたか?」と聞かれるとき、次の言葉を必ず含んで答えます。「神のめぐみ」「イエス・キリスト」「信仰」です。「自分の行い」に関する言葉は一切ありません。

あるクリスチャンたちも「私は自分の強い信仰によって救われた」と答えますが、残念なことです。それは上にあげた自分の善行に頼る人となんら変わりません。私たちが救い主を信じる心の強さによって神が私たちに報いるとは聖書では伝えていません。そのようなクリスチャンは自分の信仰が弱まっている時に、神を恵みの神ではなく、神に対する恐れと不安を感じます。そして、このような質問に口を閉ざし、自分が信仰に満たされていると感じる時だけ、このような質問について喜んで答えます。

ルーテル派のクリスチャンは自分の人生がうまく行っているときだけではなく、絶望と悲しみの底にいる時にも、罪の<sup>とりこ</sup> 虜になっている時にも、「自分は神のめぐみによって、救われた」という神の約束、その事実に確信と希望と慰めを見出します。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。ですから、誰も誇ることはできません。」(エペソ人への手紙 2 章 8,9 節)

イエス・キリストは私たちの救いのために死んでくださいました。それは私たちの善行が多いか少ないか、私たち

の信仰が強いかわいかな・・・つまり、こういった私たち人間の側に属する思いや行いに関係ありません。また、私たちのそのような行いなどがイエスの十字架での贖いの死に少しも影響を与えるものではありません。

マルチン・ルターは 16 世紀に何も新しい発明をしたわけではありません。ルターは聖書の中に何か新しい発見をしたのでもありません。ルーテル派の教理はマルチン・ルターによって作られたものではありません。彼は聖書が教えることを教えたに過ぎません。ルターの教えは聖書から出たものであり、聖書は私たちのすべての注目と関心と愛と信頼を救い主であるイエス・キリストに向けさせるのです。イエス・キリストがルーテル派の教え、信仰の中心なので、私たちはルーテル派に属する理由なのです。私たちはキリストを愛するから、ルーテル派なのです。ルーテル派の全ての面が、私たちをキリストに向かわせるので、私たちはルーテル派であることを愛するのです。それが私たちのルーテル派である理由です。アーメン